

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	社会学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 3年次および4年次生における履修単位数上限を50単位未満とする	→3年次および4年次生における履修単位数上限	A	A	A	A	A
2. 教員・学生間の学習上の双方向性を向上させる	→ミニッツ・ペーパー、小テストなどの利用数及びフィードバック状況、学生による授業評価など	B	B	B	B	B
3. 到達目標および科目相互の関連性に配慮したシラバスを作成する	→シラバスにおいて到達目標および科目相互の関連性を明示している授業数	C	B	B	A	A
4. 多面的な評価方法に基づく明確な評価基準を導入する	→多面的な評価方法と明確な評価基準を導入している授業数	B	B	B	B	B
5. 少人数教育を徹底する	→基礎演習・インターメディエイト演習などの演習クラス定員減員(20名以下)	B	B	B	B	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年度以降入学生から履修単位数上限は半期24単位以内へと改正されている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上限24単位の半数以下の修得単位の学生に対して学修指導を行う契機となった。	☆
		段階履修(ナンバリング)と履修単位数上限との関係を精査する。	☆
		その他	☆
			☆
目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 1年生対象のオムニバス形式のリレー講義において、各授業回のレポートへのフィードバックのスピードと頻度をさらに改善した。また、学生による授業評価アンケートの対象をほぼ全講義科目に拡大した。教員と学生の双方向としては、LUNA(教授者-学習者支援システム)の活用や、社会学部においてはマークシートリーダーを利用した平常時の学生のコメントや感想文の提出(年間50科目程度利用)によってコミュニケーションに活かされている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学修成果の学生へのフィードバックは概ね達成されている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 定期試験の講評開示ならびに定期レポートの公表開示を検討する。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか シラバスには到達目標が明示されるようになっている。科目相互の関連性については、2012年度から社会学部全教員の取り組みにより「社会学部で身につけておくべきキーワード集(約200語)」を作成中であり、そのなかで、各キーワードを軸にして、科目相互の関連性を明確化する予定である。また、学部FD委員会でシラバスの点検を行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か キーワード集が完成した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2016年度新教育課程でも継続的に取り組む。	☆
		その他	☆
			☆
目標4	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか シラバスには成績評価方法が明示されるようになっている。また、過度に多い履修者の科目に対し、申込制を導入して最大履修者数の抑制(350人以下に抑える)に成功したことなどにより、多面的な評価を行えるように促進活動している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 多人数講義科目の履修環境を大幅に改善できた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 多面的評価を推進するためにも、基軸となる評価方法を明確にするとともに、平常点(出席を中心とする参加)の評価基準について学部内のルールを確立する。	☆
		その他	☆
			☆

目標5	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 基礎演習や研究演習などの多くの演習クラス人数が20名以下となっている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 研究演習は基準人数があるものの、ゼミ人数にはばらつきがある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 英語科目において、小人数化を推進することが最適な内容と、中規模クラスで教授することが良い内容(例えば、文法、読解など)もあることについて検討する。	☆
		その他	☆
備考			☆